



# アフターコロナを生き抜く！ 「フジノミクス」を展開

新型コロナウイルスの感染拡大により、人々を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。アフターコロナを見据え、県が進める総合経済対策「フジノミクス」について紹介する。

## コロナ禍が提示したもの

新型コロナウイルスの感染拡大は、世界中の医療現場に深刻な危機をもたらした。

国内でもマスクや医療用ガウンなどの医療用衛生資材や人工呼吸器などの不足が課題となり、ワクチンや治療薬を含め、医薬品・医療機器開発の国内基盤の強化が求められている。

併せて、接触・対面を前提に成り立ってきたわが国の産業や生活は、コロナ禍の中にあつて停滞し、デジタル化の促進が利便性や生産性の向上に留まらず、人々の生活や健康・命を守るために必要であることを明らかにした。

## ウィズコロナ時代の地域主導型経済政策

せにもつながるものであり、大都市に依存しない地域経済交流圏の構築と圏内における内需拡大で経済の活性化を図る。

## リーディング産業の育成 「命を守る産業の基盤強化」

他方、サプライサイドの産業政策においては、「命を守る産業」である医療健康産業を中心に、リーディング産業の育成を一気に加速させていく。

県は、これまで静岡がんセンターとファルマバレーセンターを両輪として展開する「ファルマバレープロジェクト」を推進してきた。県西部を中心に展開する「はままつ医工連携拠点」と共に、県内中小企業の医療健康



(手前)ファルマバレーセンター[静岡県医療健康産業研究開発センター] (奥)静岡がんセンター



県内企業が生産している医療用高品質マスク(N95マスク、目のシールド付マスク等)



静岡がんセンター×ファルマバレーセンター×地域企業による成果品。3Dアジャストボラス(放射線治療用の補助具)

県は、今後新型コロナウイルスと共存していくことを踏まえ、感染防止を進める「ヘルス(健康)」と経済復興を進める「ウェルス(富)」の一体的増進を目指す。

第二波の到来を十分警戒しながら、冷えきった地域経済を活性化する「フジノミクス」を消費政策、産業政策の両面で展開していく。

総合経済対策「フジノミクス」の理念は「命を守るための経済、人々が幸福になる経済」だ。

「命を守るための経済」とは、フランスの経済学者、ジャック・アタリ氏が提唱したもので、他者への共感を重視し、利他主義に根ざすことで、現在の経済の方向性を、医療、食糧、物流、エネルギー、デジタル、イノベーション

産業への新規参入を促進し、インフルエンザ検査キットなど、海外へ輸出される優れた製品を開発。9年連続で医薬品・医療機器の合計生産金額全国1位を誇る県内のリーディングセクター、医療健康産業を支えている。今こそ本県が先頭に立って、命を守るための経済を牽引していく時である。

具体的には、まずマスク等の生産設備導入に対する助成制度を創設。新たに生産を開始する県内企業を支援し、不足する医療用衛生資材の供給態勢を整えた。この結果、県内企業10社が、医療用衛生資材の生産に乗り出しているほか、ファルマバレープロジェクトに参画する企業

ンなどが生きるために本当に必要とされる産業を中心とした経済・社会へ転換させていくものである。

## 「ふじのくに」経済交流圏で 内需を拡大

地域経済の活性化には消費意欲の拡大(ダイヤモンドプル)が必要だ。そこで、全経済の半分以上の規模を持つ個人消費の拡大を図るため、本県と同様に感染が抑えられており、富士山を共有する山梨県との連携を推進する。

両県を合わせた経済規模、人口規模はニュージーランドにも匹敵する。両県の県民に、互いの県産品の購入や県内施設の利用を呼び掛け、経済交流を行う「バイ・ふじのくに」により、地域内での財とサービスの

が、新型コロナウイルスから医療従事者を守るため、気管挿管時に患者を覆う専用シールドを開発している。

次に、「遠隔・非接触」技術を生かした医療機器産業への企業の新規参入を後押しするため、医療現場と連携して研究・開発に取り組み企業の初期投資を支援し、基盤強化を図る。

今後は、更に高度な研究開発、製品化を行う企業に対する支援に積極的に取り組み、将来的に輸出産業化を目指していく。また、「バイ・ふじのくに」でも連携している山梨県の医療機器産業政策「メデイカル・デバイス・コリドー」との協力により、山梨県の精密機械産業と本



台湾人医師の頼賢勇氏が公開している「エアロゾルボックス」を、静岡がんセンター×ファルマバレーセンター×地元企業にて改良した飛沫感染対策シールド(気管挿管用)



消費を喚起し、経済循環を拡大することで、「ふじのくに」経済交流圏」を形成する。また今後は、この取り組みを長野県、新潟県まで拡大し、「バイ・山の洲(くに)」として一つの域内経済交流圏の創出を目指す。

消費が増え、人々の心に豊かさ感が戻ってくることは、人々の幸福の育成は、医療健康産業に留まらない。

## アフターコロナを見据え、 「フジノミクス」を推進

県が進めるリーディング産業の育成は、医療健康産業に留まらない。

各産業においてデジタル化を推進し、県内企業の業種・業態転換やオンラインビジネスの拡大、リモートワーク導入、AI・IoT人材の育成、EV・自動運転技術の開発など、新たな取り組みを促していく。

これにより、自動車、物流、エネルギーなどあらゆる産業において、遠隔・非接触技術の確立と「デジタル実装」の推進により、経済活動を再開し、経済を再生させる。

財とサービスの消費拡大と命を守る産業を始めとするリーディング産業の育成を進める「フジノミクス」。アフターコロナを見据えた県の取り組みが加速していく。



「白金-金コロイド」ナノ粒子によりインフルエンザウイルス感染症を短時間で高感度に診断可能なキット



静岡県内の工場で生産されている経皮的な心肺補助システム(PCPS/ECMO)。心停止などの緊急症例に対する治療で、遠心ポンプと膜型人工肺を用いた人工心肺装置により、患者さんの心臓と肺の代わりの役割を果たす。